発行所
長野県保険医協会
〒380-0928　長野市若里 1-5-26
電話　026-226-0086
FAX　026-226-8698
E-mail nagano-hok@doc-net.or.jp
年間購読料　3,600 円
会員の購読料は会費に含まれています

長野保険医新聞

2019 年（令和元年）11 月 25 日
No.465　（毎月 1 回 25 日発行）
（1990 年 6 月 22 日第三種郵便物認可）

主な記事

2018 年度個別指導結果と特徴…2 面、あずみの里署名提出…3 面、中医協議論 / 財政審…4 面、妊産婦医療費助成制度の県内の実施状況…5 面、保険かわら版…6 面

患者負担軽減・診療報酬引き上げを 11・7 中央要請行動

11 月 7 日保団連の中央要請行動で各県選出国会議員への要請懇談が行われ、全国の 21 協会・医会から 88 名の役員、事務局の参加があった。長野協会からは、宮沢会長、林副会長と市川保団連理事、事務局 2 名が参加し議員室を訪問した。要請内容は「さらなる患者負担増をやめ、窓口負担の軽減を求める」と「台風 19 号により被災した医療機関等の概算請求を求める緊急要望書」の 2 点で、長野協会からは会員署名 94 筆分の連名要請書を提出した。台風 19 号の被災に関する概算請求については前日の 11 月 6 日付で事務連絡が発出されたが、請求期限間近の発出であり今後は早急に発出するよう要望を行った。当日は下条みつ、藤野保史、山本和嘉子各衆議院議員、武田良介参議院議員に面会のほか杉尾秀哉参議院議員の秘書と懇談を行い、ほかは議員秘書らに要請書を手渡した。

昼からは「今こそ！診療報酬大幅引き上げ、患者負担軽減を！」国会内集会が行われ、9 名の国会議員が駆けつけた。フロア討論では「医療費の総枠が拡大されないと、十分な人手が確保できない」「窓口負担が増えれば、ますます経済的理由による受診抑制がおきる」など現場の実態が訴えられた。

集会後は、厚労省への要請も行われ医療現場の実態や患者負担について訴えるとともに、診療報酬引き上げと患者負担軽減を求める会員署名が提出された。

厚労省（右）へ署名を提出

議員要請の最後は、宮沢会長の仲介で医師であり衆議院議員の中島克仁議員（山梨）と懇談が行われた。中島議員は「『医療の民主化』改革で、次世代に責任ある政治を実現する議員連盟」（以下民主化議連）の特命幹事を務めている。長野協会役員と保団連理事、事務局など 10 名が出席した。民主化議連は 1 人の患者がプライマリケアを担う「かかりつけ医」を任意で 1 人登録する制度創設を柱とする医療制度改革を目指し 6 月に結成された。保団連からは「患者 1 人につき『かかりつけ医』1 人を登録するというのは現在の医療現場の実態に合わないのではないか」等の意見があり、中島議員も現場の実情を踏まえた議論が大切と応じ活発な意見交換が行われた。

保団連を交え中島議員（中央）と懇談

妊産婦医療費助成制度創設を 県保険医協会が記者発表

11 月 18 日、県保険医協会は長野県庁にて妊産婦医療費助成制度等の調査結果について報道発表を実施、宮沢会長、林、市川各副会長が参加した。協会では今年 5 月に県内市町村に対し妊産婦医療費助成、妊産婦の健診事業の実施状況についてアンケート調査を実施。調査結果がまとまったため、保険医協会の今後の対応を含めて記者発表を行った。

現在長野県内で、妊産婦を対象とした医療費助成制度を実施しているのは、佐久市、立科町、大桑村、南牧村、飯山市、軽井沢町の 6 市町村（2019 年 4 月時点）という結果となり、全国的にも妊産婦医療費の助成制度はまだ少ない状況となっている。協会としては、国の制度として妊産婦医療費助成制度の創設することを要望。今後は県に対しても国へ制度創設を求める意見書を上げるよう働きかける予定であると発表した。

また、今回の調査では妊婦に対する歯科健診を 27 市町村で実施していることが判明した。協会として今後妊産婦歯科健診未実施の自治体に対して実施を求める陳情活動を行うことを報告した。

アンケート調査の詳細については 5 面に掲載。

記者発表に臨む宮沢会長（右）、林（中央）、市川（左）両副会長

救援募金協力のお願い

10 月 12 日に上陸した台風 19 号により県内でも甚大な被害が発生しました。こうした中で長野県保険医協会では県内で被災された会員医療機関の復旧支援のための「救援募金」を呼びかけています。

募金は会費振替口座からの引き落とし又は 11 月中旬送付済の郵便払込取扱票で郵便局よりお振込みをお願いします。

募金をいただいた先生には本会より領収証を発行します。本募金は税務上の寄付金等の控除対象にはなりませんが、「募金特別会費」として税務上の必要経費にできます。

多くの皆様に救援募金へのご理解とご協力をお願いいたします。

会費振替口座から募金に協力いただける場合は本紙同封の救援募金申込書を協会までファックス（026-226-8698）で送信してください。直近の会費請求日にて口座振替させていただきます。

鶏声

中待合室、子供が、上目づかいにモニター画面を診ている。映し出されているのは国民的アニメ番組。たいして興味なさそうに、虚ろな眼差し、いわゆる無表情。「お母さん、お子さんはいつもあんな感じですか？今日は特に疲れているとか？」と、問いただすまでもなく、母親も口呼吸であった。そう、多くのヒトが本来鼻で呼吸すべきところを、緊急時以外も口で呼吸している。投薬でそれは治らない。口が乾き、喉に慢性炎症があるのなら、歯肉炎、虫歯に始まり、生活エネルギーの減退に至るまで、おおよその転落ストーリーは想像に難くない。いつの間に、親の「ぽかん口」が子に遺伝するようになったのだろう。口をふさぐ絆創膏が、漫画の世界から現実の世界に忍び込んだのは、いつの事だったのか。◆摩訶不思議な逆現象が私たちを、悩ませる。シャイなのか、疲れているのか寝不足か。オイオイ今は歯の治療中、口を開けてくれなきゃ、治せませんぞ。なに、それがあなたの精一杯？奥歯には、治療道具が届きません。子供には、5 秒に 1 回「口開けて」。30 年前は暴れて嫌がる子供にしか使わなかった、強制開口器具、今は大人にまで大活躍。身体の硬さが、とうとうアゴにまで広がってきた。公園の遊具にキケン！禁止！のレッテルが張られ、ますます人の体の関節は動きの範囲を狭められ、使わないから錆びてくる。◆そうか、そこで「口腔機能不全症」が健康保険の対象になったのか。だから歯科医院はもっと、もっと頑張らなけりゃいけないんだね。・・・ってておかしくないかな？（Z・T）